
科研基盤S「<法のクレオール>と主体的法形成の研究」シンポジウム

<法のクレオール>の諸相を探る

日時：11月28日（土）13時から18時30分

場所：札幌市北区北7条西5丁目7-1

札幌北スカイビル8F 北大法学研究科大学院GPオフィス

（JR札幌駅西側ヨドバシカメラ札幌店北側向かい）

次第：

13：00～13：10 ご挨拶 長谷川晃

第1セッション：<法のクレオール>の理論的分析

13：10～13：35 長谷川晃「<法のクレオール>とその主体的条件——翻訳の意義を中心に」

13：35～14：00 松村良之「権利・Hak・Right」

14：00～14：25 尾崎一郎「法のクレオールと普遍性」

<休憩10分>

第2セッション：<法のクレオール>の実証分析——欧米

14：35～15：00 田口正樹「法主体としての学識法曹のプラクシス——学問化とクレオールの視角から」（仮題）

15：00～15：25 水野浩二「法源の法実務への適合化——法のクレオールにおける職権の役割について」

15：25～15：50 中村民雄「EU法に見る<法のクレオール>と主体的法形成」

15：50～16：15 会澤 恒「基本的権利と外国法・国際法の参照をめぐる論争」

<休憩15分>

第3セッション：<法のクレオール>の実証分析——東アジア

16：30～16：55 桑原 朝子「近世前期上方都市における相続と親族——日中裁判関係史料
の比較を通じて」

16：55～17：20 林田清明「法の解釈と適用におけるわが国司法の近代性」

17：20～17：45 鈴木 賢「中国における政策形成型訴訟の展開」

<休憩 5分>

17：50～18：30 総括質疑・討論

19：00～ 懇親会

以上
